

30P1-am127

オウゴンからのバイカリン簡易単離法の検討

○大越 絵実加¹, 長嶋 友美¹, 佐藤 博泰¹, 藤井 祐一¹, 野沢 幸平¹, 永井 正博¹
(¹奥羽大薬)

【目的】オウゴンはコガネバナ *Scuterallia baicalensis* (Labiales)の周皮を除いた根で、漢方臨床上の要約として繁用される生薬の一つである。主として炎症、充血、胃部のつかえ、下痢、腹痛などを伴う疾患に対して種々の漢方方剤に配合されて用いられる。またこれらの活性発現にはフラボノイドが重要である。今回我々は局方品オウゴンを用い、そのフラボノイド主成分であり、また局方において含有量規定のあるバイカリンの簡便な単離法を確立することを目的とした。

【方法および結果】数社から購入した局方品オウゴンを用いて抽出、濃縮、再結晶などの条件検討を行い、単離された化合物は TLC, HPLC を用いて純度検定を行い、MS, NMR などのスペクトルデータを用いて標準品バイカリンとの比較をすることで同定を行った。また、HPLC を用いて定量することで抽出物のバイカリン含有量を算出した。一方で単離したバイカリンをβ-グルクロニダーゼ処理（水浴上 60℃、1時間加温）することにより遊離するアグリコンがバイカレインであることを確認、この反応は酵素量依存的であった。同時に、遊離したグルクロン酸は標準品グルクロン酸を用いて TLC により比較、確認した。

【考察】オウゴン中のフラボノイド主成分であるバイカリンのエキス含有量が 20%以上である場合、抽出・濃縮・再結晶などの条件を設定することによって容易に単離できることを確認した。オウゴン中のフラボノイド主成分であるバイカリンを簡便に単離することは生薬の品質評価という観点から重要であると考えられる。